

2011 トーヤスポーツアカデミー

■ 事業のねらい

運動をとおして運動の楽しさや喜びを体感し、生涯にわたりスポーツに親しむ資質や能力を育成する。また、家庭との連携を深め子どもの体力・運動能力の向上を図る。



- 実施日 1st stage: 平成23年 5月14日(土)～5月22日(日)(全4回)
2nd stage: 平成23年10月15日(土)～10月16日(日)(全2回)
3rd stage: 平成24年 2月11日(土)～2月12日(日)(全2回)
- 参加対象 全ステージに参加可能な小学3年生から6年生までの児童(40名)
- 参加実績 1st参加者: 39名 小3=9名、小4=8名、小5=11名、小6=11名
2nd参加者: 24名 小2=1名、小3=4名、小4=7名、小5=8名、小6=4名
3rd参加者: 36名 小3=1名、小4=2名、小5=2名、小6=31名
運営協力者: 講師1名、学生ボランティア16名
- 備考 活動場所: 北海道立洞爺少年自然の家
後援: 洞爺湖町教育委員会、室蘭市教育委員会、伊達市教育委員会、豊浦町教育委員会、壮瞥町教育委員会、ニセコ町教育委員会、真狩村教育委員会、留寿都村教育委員会、喜茂別町教育委員会、京極町教育委員会、倶知安町教育委員会、中央地区スポーツクラブ(室蘭市)、港南地区スポーツクラブ(室蘭市)、山人あそび隊(豊浦町)、地遊スポーツクラブ“ジョイ”(壮瞥町)
協力: 札幌国際大学

1 事業実施の背景

少子化・都市化などにより、日常的に体を動かすことや外遊び・スポーツをする機会が減少する中、本道の児童生徒の体力・運動能力は全国平均より低い傾向が見られ、スポーツ活動に親しみながら、生涯にわたり体力づくりを進めることが求められている。

本事業は、運動や冬の遊びをとおして、参加者に運動の楽しさや喜びを体感してもらい、生涯にわたりスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るものである。



2 プログラムデザイン

■ ファーストステージ



■ セカンドステージ



■ サードステージ



		9	10	11	12		
5/14(土)	受付	開会式 ミーティング	「自分の力を知ろう」 アイスブレイク、体力・運動能力テスト	ミーティング	解散		
5/15(日)	集合					実技 「速く走れるようになろう①」 コーディネーショントレーニング	
5/21(土)						実技 「速く走れるようになろう②」 コーディネーショントレーニング	
5/22(土)	実技 「運動の成果を試そう」 体力・運動能力テスト			ミーティング 閉会式			

		9	10	11	12		
10/15(土)	受付	開会式 ミーティング	「体力や運動能力を身につけよう」 ボールを使ったゲームを楽しもう	ミーティング	解散		
10/16(日)	集合					実技② 「体力や運動能力を身につけよう」 ボールを使ったゲームを楽しもう	ミーティング 閉会式

		9	10	11	12		
2/11(土)	受付	ミーティング	冬のスポーツや運動で体力アップ! 「キックゴルフ」「歩くスキー」「そり滑り」 「スノーモービル」「体力・運動能力テスト」 などなど	ミーティング	解散		
2/12(日)	集合					ミーティング 閉会式	

■ アクティビティについて

■ 意図

- 運動の楽しさや喜びを体感してもらうために、コーディネーショントレーニングや冬の外遊びを取り入れ、参加者のニーズに合わせた内容を企画・指導した。
- 運動の成果を正確に得るために、全8回全てに参加できる児童を募集し、長期的な事業を展開した。

■ 留意事項

- 参加者の体力・運動能力の変容を確かめるために、事前と事後に体力・運動能力テストを実施した。
- 参加者が簡単に楽しみながら運動に親しむために、スポーツ指導専攻の大学生スタッフに参加者のサポートや事業の運営協力をしてもらった。

3 活動の様子

■ 当日の様子

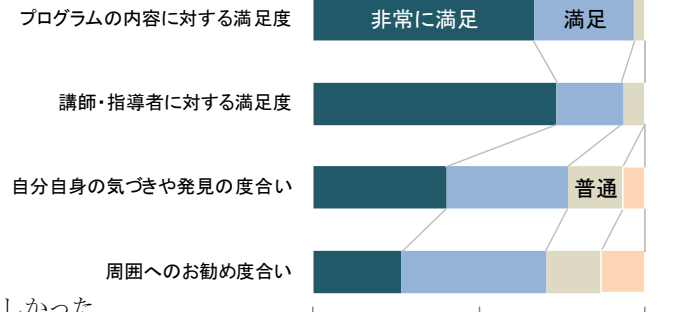
ファーストステージでは、児童の体力・運動能力を専門とする札幌国際大学の小林教授を講師に、参加者の状況を把握するために「体力・運動能力テスト」を実施した。また、運動会に向け、速く走るための運動としてコーディネーショントレーニングを取り入れ実施した。参加者は楽しみながら意欲的に運動に取り組んだ。

セカンドステージでは、ファーストステージの参加者からアンケートを取り、「サッカー」と「キックベースボール」を実施した。学芸会のシーズンでもあり、ファーストステージから引き続き参加する児童は少なかったが、安全に配慮しながらボールを足でコントロールする運動に意欲的に取り組んだ。

サードステージでは、冬に行う「キックゴルフ」「歩くスキー」「スノーラフティング」を活動グループに分かれて実施した。参加者は雪と寒さの中で汗をかきながら冬の運動を楽しんだ。

■ 参加者の声（アンケートから）

- 1st stage
- 自分でも速く走れるようになったと思う。
 - どうしたら速く走れるかがわかった。
 - 楽しみながら体力が備わった。
 - これから運動を楽しもうと思った。
 - 走るのが楽しいことに気づいた。
 - 運動の楽しさがよくわかった。
 - 走るのが速くなった。
- 2nd stage
- サッカーでゴールに入れることができてとても楽しかった。
 - ボールを使ってできるゲームの楽しさがわかった。
 - 準備運動の大切さがわかった。
- 3rd stage
- 冬の遊びがおもしろいと思った。
 - キックゴルフがとても楽しかった。
 - 歩くスキーが難しかった。
 - 自然とふれあえて楽しかった。



4 事業評価



■ 評価方法・重点

本事業は、運動の楽しさや喜びを体感し、日常の運動習慣の確立を目的としたため、「積極性」「現実肯定」「運動への関心」「運動習慣・技能」の向上に重点を置いた。

■ 参加者の変容【IKR調査結果】

1st: 右上グラフ 2nd: 右中央グラフ 3rd: 右下グラフ

ファーストステージにおいて最も向上が見られたのは、「現実肯定」の0.5ポイントであった。重点とした「運動への関心」は0.2ポイント、「運動習慣・技能」は0.1ポイントの向上が見られた。

セカンドステージにおいて最も向上が見られたのは、「明朗性」の0.7ポイントであった。重点とした「現実肯定」は0.2ポイント、「運動への関心」は0.5ポイント、「運動習慣・技能」は0.3ポイントの向上が見られた。

サードステージにおいて最も向上が見られたのは、「まじめ動勉」の0.6ポイントであった。重点とした「現実肯定」は0.2ポイント、「運動への関心」は0.5ポイント、「運動習慣・技能」は0.3ポイントの向上が見られた。

■ 結果の分析・考察

「体力・運動能力測定」において、参加者が自己の体力や運動能力に興味・関心を持ったこと、また、ゲーム性のある運動や初めて体験する運動を取り入れたことで、参加者の「運動への関心」が高まり「運動習慣・技能」も高まったと考える。

5 まとめ

■ 成果

- 運動に関心を持たせることができた。
- 運動の楽しさや喜びを体感させることができた。
- 今後も運動に取り組んでいきたいという意識を持たせることができた。

■ 課題・今後の方向性

- 継続的な取組による成果を得るために、全ステージに参加する条件で参加者を募集したが、学校や地域、家庭の事情で全ステージに参加できない児童が多かった。次年度は、学校・地域行事を掌握した上で日程の調整が必要である。
- 今年度、壮瞥町の総合型地域スポーツクラブに協力いただき、事業に参加していただいた。次年度も近隣の市町村総合型地域スポーツクラブとの連携を図り、児童の参加及び企画・運営を展開したい。
- サードステージでは、年間を通じてスポーツ活動に親しみながら、体力づくりを進める点から、北海道の魅力である雪や寒さを生かした冬期間の運動やスポーツを取り入れたが、参加希望者が予想以上に少なかった。冬期間屋外に出たがらない子どもたちが是非外で行動してみたいと思うような工夫や取組が必要である。

